

News Letter

まもなく1歳半になる娘は、保育園の帰り道にあるエノコログサが大好きで手に持ちながら家に帰ります。また先日は、地面を動き回るアリを指で追っていました。彼女は今、目の前に広がる自然から、様々な情報を吸収しています。その娘が生まれて初めて見た野生の哺乳類は、近所の用水路の中のヌートリアでした。その良し悪しを論じることはここではしませんが、少々複雑な気持ちになったのは事実です。

現在私は、ある自治体の外来種に関するブックレット作成業務を担当しています。一般の方向けのブックレットということで、「外来種とは何か」「そもそも、なぜ外来種はダメなのか」「なぜ駆除するのか」といった、我々にとっては当たり前になってしまっている項目から分かりやすく説明をしていくため、改めて、外来種問題とイチから向き合っています。

す。一般の方の持つ素朴な疑問に丁寧に答え続けていくことも、我々の大切な仕事なのだと感じています。

ところで、外来種というと、皆さんはどんな生きものを思い浮かべますか？一昨年、神戸発のニュースとして一世を風靡したヒアリは、まだ多少ホットな外来種、また、桜にも加害するため将来お花見ができなくなるかも！とのことで話題になったクビアカツヤカミキリも外来種です。一方で、私達の身近な風景の一部となっているセイタカアワダチソウも外来種ですね。

また、外来種というと国外からやってきたものを想像しがちですが、「国内由来の外来種」といって、例えば白山の高山帯にもともと生育していなかったが今では生育が確認されているオオバコなどは、白山高山帯では外来種とされています。

在来種に様々な性質を持った種がいるように、外来種にも様々な種がいます。その中には、現時点では日本の自然の中に馴染んでいるように見える種がいる一方で、じわじわと（あるいは爆発的に）その個体数を増やし、大きな影響を及ぼすおそれのある種、もしくは既に及ぼしている種もいます。後者は、対自然、対ヒト、対経済に対して深刻なダメージをもたらす可能性が大きい種（「侵略的外来種」）です。

外来種対策では、各地で様々な防除（駆除）活動が行われています。

植物については、あまりそういった声はあがりませんが、対象が動物になると、出てくるのが「駆除はかわいそう。」との声。魚まではなんとかOKでも、足が付いてくると「かわいそう」という気持ちが出てくるのは自然な感情だと思います。

確かに、自分から好んで日本にやってきた訳でもない、そんな生きものの命を奪うこと＝駆除はかわいそうなことです。しかしながら、そもそも持ち込んでしまった（意図、非意図にかかわらず）のは人間です。それらが、もともとそこにあった生態系や人への健康、経済に悪影響を及ぼすのであれば、それを取り除くことは、持ち込んでしまった人間の責任であるといえます。

そして駆除以前に、これから先さらにかわいそうな生きものを増やさないために、外来種被害予防の三原則である「入れない」「捨てない」「掘げない」が本当に大切であると感じています。

数十年後、娘が子育てをするようになったその頃に、長い年月をかけて育まれてきた日本の自然が大きく変わることなく、そこにあり続けてくれるよう、今後とも微力ながらそのお手伝いができればと思っています。

（名古屋支社 自然環境研究室 今井 涼子）

巻 頭 エッセイ

外来種問題と向き合って



愛知県内の市街地を流れる河川に生息するヌートリア。中央にはミシシippアカミミガメ。

目次

エッセイ	外来種問題と向き合って	1
業務紹介	工場緑地は人と自然を育てる場	2
インタビュー	いきもの好きの履歴書 vol.2	4

連載漫画	びっくり！目からウロ子ちゃん	7
	ザ・グンバイムシ！	8
	ある日のフィールドノートから	

工場緑地は人と自然を育てる場

出光興産株式会社北海道製油所 緑の活動のご紹介

北海道支社 自然環境研究室 松岡 和樹

目を閉じ、工場地帯を頭の中に思い浮かべてください。
多くの方が脳裏に描くのはこのような光景だと思います。

- ・煙をモクモクと排出する煙突
- ・立ち並ぶコンクリートの建物
- ・パイプを伝って流れ出る廃水
- ・どこもかしこも無機質で灰色な風景 …

実はこのイメージ、かなり古いものであることをご存じでしょうか？現代の工場地帯は、驚くほど緑が多く、その緑には多くのいきものたちが集まっています。

今回は、工場緑地の自然を活用した地域貢献活動の一例として、当社がお伝いをしている、出光興産株式会社北海道製油所の「緑の活動」を紹介いたします。



出光興産株式会社北海道製油所構内の中庭全景



構内の道路には樹齢 40 年を超える八重桜が立ち並ぶ。

勇払原野の自然が垣間見える 工場緑地と緑の活動

出光興産株式会社北海道製油所（以下、北海道製油所）は、北海道苫小牧市の臨海地域に位置しています。一帯は多くの企業が工場を構える工場地帯となっていますが、北海道製油所が操業を開始した 1973 年以前は、高木がほとんど生えていない原野でした。この原野は、様々な希少生物が確認されている勇払原野の南端部に位置しており、工場緑地には、今でも勇払原野由来の動植物が生息・生育しています。

北海道製油所は創業当初から長き

にわたり、自然環境と調和した、地元の人々に愛される製油所づくりに取り組んできました。

潮風が吹きすさぶ臨海地域では無謀な挑戦といわれた植樹についても操業時から力を入れており、今では構内にクロマツ等からなる築山緑地や苫小牧市民の心を和ませる八重桜の並木が育っています。

北海道製油所では、このような立地環境の特性を踏まえ、緑化を通じて地域と繋がり、限りある自然財産を次世代を担う子ども達に引き継ぐことを目的とした「緑の活動」を 2012 年から継続的に行っています。

緑の活動で自然財産を毎年チェック ▶▶ いきものモニタリング

今ある自然豊かな緑地を維持し続けるには、現状を把握するための努力も必要不可欠です。2016 年度からは、長期的ないきものの生息・生育量の変遷を把握するための定量的なモニタリング調査を行っています。

2018 年度までのモニタリングでは天然記念物や国内希少野生動植物種に指定されている種、環境省・北海道レッドリストに選定されている種などのいわゆる希少種を含む、多くの鳥類、植物、トンボ類等が確認されています。



構内の草地を代表する鳥の一種 ノビタキ



勇払原野由来の希少種 セナミスミレ



構内の池に飛来するルリイトンボ



植物の生育状況をモニタリング

緑の活動で自然財産を毎年共有 ▶▶ いきもの教室

いきものモニタリングで把握された自然財産については、いきもの教室というかたちで地元小学生と共有しています。現在までに、野鳥の教室（2012年、2016年、2019年）、草木の教室（2014年、2017年）、トンボの教室（2015年、2018年）を行いました。参加した子ども達は、今まで気づかなかった野生動植物の存在に驚き、遊びながらいきものと親しむ術を身につけます。そして、イベントが終わるころには、ほとんどの子ども達がいきものに対する興味・関心を高めています。

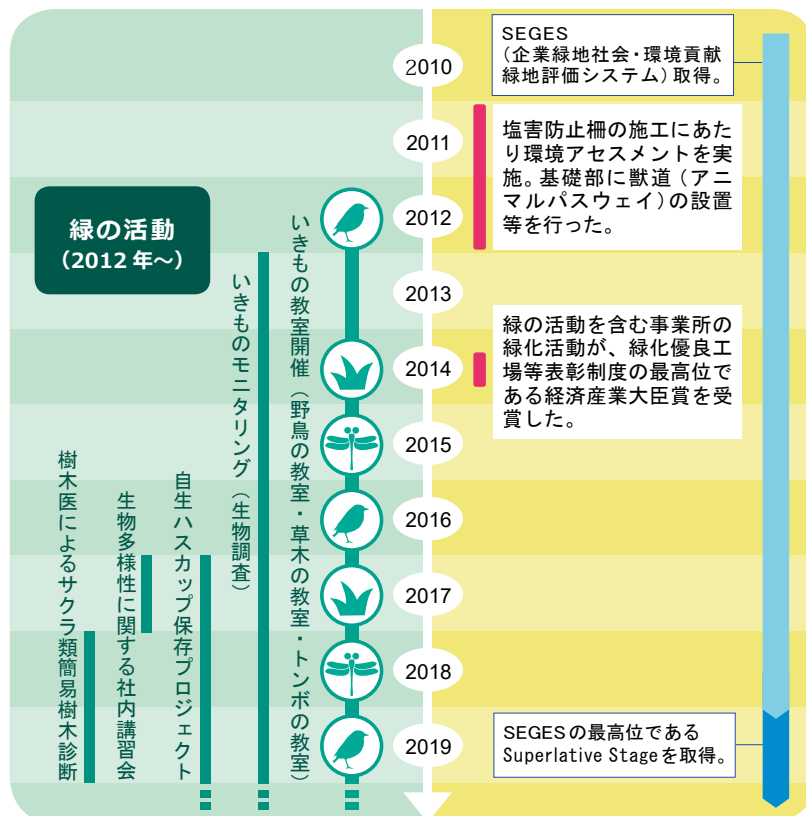
そんな楽しそうな笑顔を見ていると、近い将来、この子達が北海道製油所の職員として舞い戻り、この緑の活動を引き継いでくれるんじゃないか… そんな絵空事のような、はたまた本当に実現してしまいそうな空想を思い浮かべてしまいます。

「継続」「自然財産」「職員の思い」 で緑地の新たな魅力を発掘する！ ▶▶ 緑地の付加価値

2019年現在で8年の歴史を持つ緑の活動は、工場緑地に付加価値を与える要素の一つになっており、その活動



シジュウカラが使用した後の巣箱を観察



緑の活動のこれまでの取り組み及び緑化活動に関する最近のトピックス

を含む北海道製油所の工場緑化は、対外的にも高い評価を受けています。しかしながら、この活動は先にも述べた通り、「緑化を通じて地域と繋がり、限りある自然財産を次世代を担う子ども達に引き継ぐ活動」であり、北海道製油所の職員の方々、一つずつの評価に感謝しながらも、これらの名誉に甘んじず、今ある自然財産と職員の思いを子ども達に引き継ぐべく、常に次の活動に向けて準備を進めています。

ゆっくり！じっくり！確実に！ ▶▶ これからの緑の活動

緑の活動のいきもの教室については、苫小牧市美術館にもご協力いただいています。また、今では少なくなっている原種由来のハスカップ (ク

ロミノウグイスカグラ) が北海道製油所の緑地に植えられており、地元の樹木医や研究者の方々とともにその苗木を増やすことを検討しています。

今後の緑の活動は、大きく変わることもなく、規模や範囲を急激に広げることもないと思います。しかしながら、今までと同じような速度でゆっくりと活動の輪が広がり、じっくりと地域に浸透していくことで、熱意ある新たな仲間が自然に加わり、確実に前進していくことでしょう。

わたしたちちいかんも引き続き「緑の活動」に参加させていただき、工場緑地の自然の財産を地域の未来へ繋げることに、自然との共生を通じた地域貢献を続けていきたいと思っています。



植物の識別体験



小さな子にも捕まえやすいイトトンボ

生きものとの出会いや、現在の仕事に対する姿勢など。
ちいかん社員の普段は聞けない「あんな話」や「こんな話」、ちょっとだけ探ってみましょう！

いきものの好きの履歴書 VOL.2

——津田さんは東京の都会育ちとお聞きしました。

はい、生まれも育ちも、東京都千代田区の九段という所です。

千代田区は、今ではビジネス街のイメージですが、私の幼少時代は、庭木が茂る一軒家や、空き地もありました。

——生きもの大好きな女の子だったんですか？

人並みじゃないですかね。でも外で遊ぶのは大好きでした。

私の場合は家が飲食店をしていたので、平日は親が忙しく、遊ぶのはもっぱら近所の公園、神社でした。小学生の頃は、近所の工事現場や神社で採ったシイの実を炒って食べたり、神社の池でエビを釣ったり。

——ちいかんにはどちらかというと田園や山の景色を原風景に持つ社員が多いように思います。

祖父母、両親、みな東京生まれで、夏休みに田舎に帰るという経験もなく、山や川で遊んだ経験はほんの少ししかありません。

小学生の時、遠足で中央道(高速)



小学生の頃

を走っている際、バスの中から見えた山々に、クラスの皆が「山だ！山だ！」と言って、拍手した記憶があります。それくらい山は珍しいものでした。

——子供の頃からの強い思いがあるわけでもなかった？

強いて言えば、「旅」が好きでした。

小さい頃からとにかく出歩くのが好きで、色々な所をウロウロしていました。

中学・高校は人並みに原宿や渋谷で遊んでみたけど、ふと「もうこういうのはいいや！」って思っちゃって(笑)。それからはなんとなく憧れがあった山や川へと……。その延長線上に野生動物がいた感じですね。



いつも思うのは、自然のもの、風景は、
とってもキレイで、カッコイイ!! ということです。

九州支社 自然環境研究室 主任 津田朋香

Tomoka Tsuda ●日大生物資源科学部を経て2000年新卒入社、キャリア19年目。専門分野は哺乳類を中心に鳥類、両生類、爬虫類。近年は生物多様性保全に係わる業務も担当。

——旅行好きと自然環境への憧れがきっかけだったんですね。

そうですね。調査のために移動するのが楽しくて。

大学では、青森県八甲田山でサブレジャー（環境省のアルバイト）、屋久島でヤクザル調査、小学生向けの観察会などをやっていました。

——ほんとに幅広く活動してたんですね。

何か一つの種や生きものの単体に強く惹かれるというよりも、いつも思うのは、自然のもの、風景は、とってもキレイで、カッコイイ!! ということです。

大学1年の時に、台風が過ぎ去った後に、八甲田山の六岳に夜間登ったことがあるのですが、六岳の山頂から見た月の光が降り注ぐ雲海は、それは、それは素晴らしかったです。

——そういう思いを抱いて、ちいかんを目指したということですか？

そうなんです。実は私、最終面接で落ちてるんですよ。不合格の連絡があって、じゃあしょうがないから卒業旅行に出発しようっていう直前に「やっぱり採用しますよ」って連絡をいただいて・・・。

旅行先が海外だったんで、あと少しタイミングが遅れてたら私は今ここにいません(笑)。

——すごい縁があったんですね。入社されてからは東京支社の自然環境研究室で、主に哺乳類担当としてキャリアを積まりましたが、環境コンサルティングというお仕事の中で、特に気をつけていることはありますか？

お客様や地域の方々と、なるべく早く仲良くなり、円滑にコミュニケーションをとれるようになることです。その上で、問題やご要望を聞き出し、お応えすることです。

やっぱり仕事は人と人とのつながりで成り立っていると思います。

——なるほど。そういった思いに至るまでには色々な経験をされたと思います。新人の頃などは先輩と一緒に仕事をするにあたって、印象深かったことはありますか？

優しくて厳しい先輩方でしたけど、

「3年間は何を聞いてもいいからとにかくわからないことは聞け。どんな些細なことでも必ず教えるから。」って言われて、必死で色んな事を質問した思い出があります。

学校じゃないので、ちゃんと、「教えてください」って言わないと誰も教えてくれない。当たり前の事ですが大切ですよ。今の若い人にも言っていきたいなと思っています。

——なるほど。現地調査などの思い出はありますか？

新人の頃に道に迷って助けていただいたことは何度か・・・。

印象深かったのは緩傾斜の雪上を移動しながら調査をした時ですね。緩傾斜の雪上というのは方向を見失いやすいんですが、いつもは厳しい上司から「もし迷ったら必ず迎えに来てやるからじっとしてなさい。」って言われてすごく頼もしかった思い出があります。

現場に向かう車の中で、非常用に準備したチョコを勝手に食べて怒られましたけど・・・。

——必ず話にオチがつきますね(笑)。確かに、津田さんはヘビーな現地調査でも飄々とこなされていたような印象があります。現場では怖いもの無し、な感じですか。

いえ、実は私、世の中で最も苦手な生きものがいて・・・「ドバト」なんです。もう、目の前に飛んでこられたら、失神してしまうのではないかなと思うくらい苦手です(笑)。

——そんな弱点があったとは(笑)

入社試験の最終面接で、「苦手な生きものいる？」と聞かれたのは今でも覚えています。

ウソをついても仕方ないので正直に答えました。「ドバトなら大丈夫」と言われ、安堵したのを覚えているんですが、当時はまだ都市域の調査は少なかったですから(泣)。

——都市域は鬼門ですね(笑)。色々な苦労(?)をされている津田さんですが、仕事をする上での座右の銘みたいなものはありますか？

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」です。

意味は、できそうなことでも、その気になってやり通せばできるということです。

小さい頃から、超体育会系の母にこの言葉を言われて育ったもので、いつの間にか私も大事にするようになりました。この言葉を裏切らないよう、日々努力して成し遂げていきたいと思っていますが・・・なかなかうまくいかないことが多いですね。

為せば成る

"超体育会系"の母の教え「為せば成る」

——津田さんは今、2人のお子さんを育てながらお仕事をされていますが、仕事のやり方もだいぶ変わりましたか？昔とはまた違う苦労があると思いますが。

はい、今は時短勤務で内業中心ですが、それでも不測の事態が多く、なかなか思い通りに仕事を進めることができないのが悩みです。

仕事ではとにかくお客様にご迷惑をおかけしないよう、準備や段取りを今まで以上に心がけるようにしています。社員の方々のサポートもいただきながらの毎日です。



——仕事柄、日程が決まっている仕事も多いので、変更するのが大変なことも多いですね。

そうですね。ただ、ちいかんは「子育てしながら仕事をする」事に対して、ポジティブに受け止めてくれる社風があるので、その部分では助かっています。先輩ママに相談したり、泣き言を聞いてもらったり、それが活力になるんです。

——ちいかんは企業イメージもあってか、女性の就職希望者が比較的多いんです。

女性にとってはキャリアを経ていく上で、結婚・出産・育児というのはどうしても不安なものだと思います。ちいかんは私も含め、子供を育てながら働いている女性社員がいますので、その辺りは心配いらないと思いますよ。

もちろんそれに見合った成果はきちんと求められますし、大変ですが、

女性だからこそ活躍できる部分がちいかんには多くあると思っています。

——では女性・・・と、もちろん男性も含めて(笑)ちいかんで働きたいと思っている方々にアドバイスはありますか？

そうですね。就職や転職は人生の何割かを共に過ごす人達を決める、ということでもあると思うんです。

業種、仕事の内容も大事かと思うのですが、説明会や面接の限られた時間の中で垣間見える、未来の上司や先輩、そこから感じられる会社の雰囲気も大事だと私は思いますね。

——今は子育てとお仕事で大変だと思いますが、お休みの日などは何をされていますか？

この春に九州に転勤になって、家族で福岡に引っ越しました。引越し先は古い漁師町で、歩いて15分で海が



あります。漁港があって毎週末朝市が立つんですが、そこで新鮮な魚介類を買って食べるのが休日の楽しみです。

——いいですね！ 地元の方々との交流なんかもあるんですか？

はい、先日うちのお隣の漁師さんがその朝市にお店を出しておられて、挨拶したら30センチ以上あるタイをもらいました(笑)。さっそくタイのお刺身&あら汁でいただきましたけど、最高でした！

——いいなー！ それはすごい！ 日々仕事や子育てに奮闘中のお話をありがとうございました。最後に自分が一番心躍る「生きもの」を一種あげて、思いの丈をぶつけてください。

思い出深い生きものは「ハマダンゴムシ」です！ 以前、この「ハマダンゴムシ」を地域の方々と調べる機会がありました。調べようとしていた場所周辺での確固たる分布情報はなかったものですから、本当にいるかどうか不安で、ドキドキでした。見つけた時の嬉しさは、通常の調査ではあまり感じない、格別なもので、今でも、海岸に行ったら探したりしています。

——哺乳類じゃなくまさかのダンゴムシですか！ ありがとうございました。



取材日記

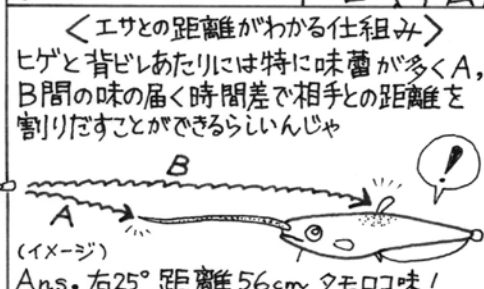
企画、取材：管理部 森田 哲朗

「ちいかんで働く人達」にスポットを当てたインタビュー企画第2弾。今回は哺乳類担当の津田さんにお話を伺いました。昔の話から仕事の話、子育ての話まで、楽しくおしゃべりすぎて文字数が大幅にオーバー！ 編集に非常に苦労しましたが、大変楽しい時間でした。やっぱりちいかんに集まる人達は面白い！ 次の機会をお楽しみに！

紙面に入りきらなかったノーカット版は、当社サイトの採用ページ「働く仲間を知る」をごらんください。



びっくり目からウロ子ちゃん



監修: 佐々木孝太郎 (地域環境計画 東京支社長) 参考文献: 「図解・感覚器の進化」岩堀修明
イラスト: 飯塚 要

ある日のフィールド・ノートから

ザ・グンバイムシ！

皆様はグンバイムシをご存知でしょうか？厳密に言えば、カメムシ目カメムシ亜目グンバイムシ上科グンバイムシ科の昆虫のことになります。なぜグンバイムシと言う名称なのかといえば、グンバイムシの姿が、かつて武士が、戦の指揮に用いたうちわ形の道具（軍配）に似ていることから、この名前がついたとされています。

日本に分布する70数種のグンバイムシ科のうち15種前後は比較的普通に見られるため、いわゆる普通種になりますが、残りの50種強はなかなか採ることが困難であり、いわゆる珍品の部類に入る昆虫になります。なぜかといえば、

●寄主植物は普通にみられても分布している場所が限られている

フキ⇒エグリグンバイ
アザミ類⇒アザミグンバイ
イヌコリヤナギ⇒コリヤナギグンバイ
ミズキ⇒マツムラグンバイ など

●特殊な環境に分布している

蘚苔類⇒マルグンバイ類
ニガクサ等の虫こぶ⇒ヒゲトグンバイ
落葉など⇒クチナガグンバイ など

●寄主植物が不明

タカサゴグンバイ、エボシグンバイ、アミメグンバイ、ケナガグンバイ など

●寄主植物が特殊

屋久島のシャクナゲ⇒ドレイクグンバイ、九州と紀伊半島のシャクナゲ帯⇒ヒコサングンバイ、八甲田山のハクサンシャクナゲ⇒ハッコウダグンバイ、北海道のシャクナゲ帯⇒ワタナベグンバイ など

といった理由が挙げられます。

環境調査の仕事始めて30年ほどになりますが、何となくこのグンバイムシ科の姿形がカッコイイと思い、いろいろな現場において常に珍しいグンバイムシ科を探すようになりました。その結果、これまでに自力採集で日本に生息するグンバイムシの3分の1に当たる約25種を採集することができました。その中で自慢のグンバイムシ科ベスト5を紹介します。



ヒゲトグンバイ 宮城、新潟：河川敷
生きているときは太い触角をふりふりしてとてもセクシーだと思います。



アザミグンバイ 宮城：アザミ類
アザミは広く分布していますが、関東地方で本種を見たことがありません。



クチナガグンバイ 神奈川、宮城
口吻がとて長い！！たぶん落葉の中にいるのではないかと思います。



マツムラグンバイ 熊本、東京：ミズキ
ミズキはどこにでも生育していますが、本種はなかなか採れません。



エグリグンバイ 多摩地区：フキの葉裏
多摩地区周辺では普通にみられますが、他地域ではなかなか採れません。



現在最も見てみたいのは、蘚苔類に分布するマルグンバイ類です。幹や岩に蘚苔類がついていると必ずチェックしていますが未だ見つかっていません。それから南西諸島の種にも会ってみよう！…未知のグンバイムシ科への憧れは、当分止みそうにありません。

(東京支社 テクニカルマネージャー
伊東 憲正)

News Letter No. 46 2019年10月

【発行】……………株式会社 地域環境計画

● 発行人 …………… 高塚 敏

● 編集 …………… 中山香代子・釣谷佳子・岡崎康代

・永沢敦子・渡邊由佳・亀井光子

素朴な疑問やご感想などお寄せください。お待ちしております。E-mail: nl-info@chiikan.co.jp

今年の夏は身に伝える暑さが続きました。夜、クーラーをつけたまま寝たのは人生初です。そして、そんな寝苦しい夜に活躍したのがクロモジという植物を蒸留して作られたフローラルウォーターのスプレーでした。クロモジはクスノキ科の落葉低木で、国内の山地に広く分布しています。和菓子に使われる高級な楊枝の材料として名前を聞いたことがある方もいらっしゃるかもしれませんね。甘みと爽やかさが混ざったような香りで、枕の近くにスプレーするとまるで深い森の中で寝ているような気分になり、リラックスしてよく眠ることができました。自然の恵みを上手に取り入れながら、気持ちよく日々を過ごせたらと思います。(渡邊由佳)

株式会社
地域環境
計画

生きものと共生する
地域づくり人づくり
ちいかん

■ 本社 ■ 東京支社
■ 企画開発部 ■ プロダクト営業部

〒154-0015
東京都世田谷区桜新町 2-22-3 NDSビル
TEL: 03-5450-3700
<https://www.chiikan.co.jp>

■ 北海道支社 TEL: 011-717-8001 ■ 大阪支社 TEL: 072-684-3182
■ 東北支社 TEL: 022-772-6651 ■ 九州支社 TEL: 092-833-5270
■ 名古屋支社 TEL: 052-760-2822

運営サイト

鳥獣被害対策商品の専門店
鳥獣被害対策.com <https://www.choujuhigai.com>

屋外防犯用品の販売サイト
Fieldsaver.com <https://field-saver.com>

自然を伝えるプロダクション
Nature Clips <https://nature-clips.com>